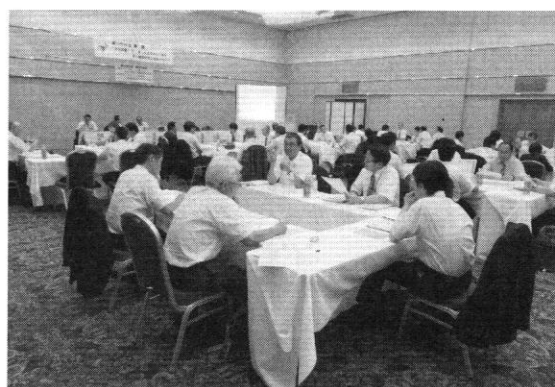


## 研究課題

たくましく生きる心と体を育む  
健康教育と校長の在り方

## I 趣 旨

子どもたちが豊かな人間性を育み、たくましく生きていく力を身に付けていくための根本にあるのは、何より健康で生活していることである。しかし、社会環境や生活環境の変化は、子どもたちの生活にも影を落とし、運動機会の減少や生活習慣・食習慣の乱れなどにより、様々な健康問題が起きている。これらの課題解決を図り、健康や体力を育むための指導には、子どもたちが健康の増進や体力の向上の必要性を十分認識した上で、自らの健康を適切に管理できる力を習得させ、生き生きとした生活を実践することができる能力を育てることが求められる。そのため、子どもが基本的な生活習慣の一部である運動習慣を適切に身に付け、望ましい食習慣の意義を理解し、生涯にわたって主体的に実践する意欲と態度を培っていくために、家庭や地域社会と一体となって取り組んでいく必要がある。そこで、校長は、多様化・深刻化している子どもの健康課題を解決するために、リーダーシップの下、健康教育全体計画に基づき、教職員が役割を明確にし共通理解に立った組織の機能が果たせるよう体制を整えなければならない。

<研究の視点1> 心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進

- ① 各領域における学習内容相互の関連を図り、横断的・総合的な健康教育の推進のため、校長はどのように指導性を発揮するか。
- ② 健康教育を組織的に推進するための校内体制確立に、校長はどのように指導性を発揮するか。

<研究の視点2> 望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実

- ① 望ましい健康習慣と食習慣の形成に不可欠な家庭・地域との連携推進のため、校長はどのように指導性を発揮するか。

## II 研究発表及び協議

## 1 研究発表

「子どもの心身の健やかな成長を促す健康教育の推進と校長の役割」

空知地区 深川市立納内小学校 石丸由美子

サブテーマ 1 自らの健康を見つめ実践する学校経営

サブテーマ 2 健全な食生活を実践する力を育てる学校経営

## (1) 年次計画

- ① 健康教育の基本事項の確認、健康教育・食育教育についての実態調査、主題・副主題・推進の視点の確立（平成23年度）
- ② 各校研究推進計画の樹立、実践交流と課題解決の方向性の修正、先進的な取組事例の研究（平成24年度）
- ③ 実践交流、成果と課題の明確化、校長としての役割と指導性の明確化（平成25年度）

## (2) 研究の概要

- ① 北空知各校における実態調査の実施と分析
- ② 課題設定、研究推進計画の構築と実践
- ③ 実践交流と課題解決のための具体的方策の確立
- ④ 校長としての役割と指導性の明確化

## (3) 調査の方法

北空知の小学校、深川市の中学校を対象に実態調査を実施した。実態調査の内容は、二つのサブテーマについて、それぞれ、「学校経営」「教育活動」「家庭との連携」「家庭生活」「行政の役割」の観点を設け、サブテーマ1には30項目、サブテーマ2には20項目の設問を設け、到達度方式（一部記述式）で行った。

## (4) 調査結果の分析から（健康教育について）

## 【課題】

- 教師の健康教育に対する一層の理解と指導力の向上を図る。
- 家庭生活における子どもの生活行動並びに保護者の意識については不透明である。

## 【解決策】

- 研修を充実させ、教師の意識改革と実践的指導力の向上を図る。
- 基本方針の明確化を通して、健康教育の必要性・重要性についての教職員の理解促進を図る。
- 学校評価などにおいて子どもの家庭生活における

実態を把握するとともに、保護者の意識啓発のためにも情報の積極的な提供と学習機会の拡充を図る。  
○向上してきている体力・運動能力の維持を図る。

(5) 調査結果の分析から (食育)

【課題】

- 食育についての全体計画は存在するが、実践の場で生かされる学年別の指導計画は未整備である。
- 保護者の食育に対する考えや、子どもの食習慣については不透明である。
- 食育推進に対する教職員の意識や指導力は高くない。

【解決策】

- 栄養教諭や養護教諭を中核にした食育推進体制を構築し、推進計画の整備・充実を図る。
- 栄養教諭や地域人材を活用しての授業を構築し、子どもの健康管理能力の向上を図る。保護者にも授業を公開する。
- 家庭と連携し食育を推進するためにも、家庭における食習慣についての実態を把握し、意識啓発を図る。
- 栽培などの体験活動を積極的に導入したり、学習環境を整備したりするなどして、子どもや保護者の食に対する意識の啓発を図る。

(6) 課題解決の方策

学校規模や地域特性による健康教育の推進状況の違いはあるが、校長会としての共通課題を設定した。また、共通課題を受けて、学校の実態に応じた解決策の確立を図り、各校における具体的な実践を行った。

毎月の校長会研修時には、取組の進捗状況について交流し、効果的な具体策や成果と課題の明確化を図った。

実践項目(課題)を健康教育について①基本方針の明確化②教職員の意識改革・指導力の向上③家庭との連携の3項目、食育教育については①経営方針への位置づけ②教育活動の充実③栄養教諭の活用④家庭との連携の4項目を設定し、それぞれの項目について各校独自の課題設定と具体的方策を確立し実践を行った。

(7) 各校の実践事例より

◆栄養教諭による授業の実施◆家庭での食生活の実態調査◆保健便りによる家庭への啓発◆通学学習(食育授業・調理実習・夕食会)の実施◆農業体験学習の実施◆経営方針に位置づけられた教職員の「知」「徳」「体」プロジェクトチームの編成 等

(8) 成果と課題

① 成果

- 教職員の経営参画意識の高まり、保護者、地域の理解
- 小・中の役割と連携の重要性・基盤整備
- 各校の特色を生かした健康教育の充実
- 子どもの食に対する意識や望ましい食習慣
- 子ども・教職員・保護者の食に対する意識向上

○取組の活性化

② 課題

- 栄養教諭の専門性を生かした食育の一層の充実とともに校内委員会を組織し分掌に位置付ける。
- 各領域における学習内容相互の連携を図り、横断的・総合的な指導の充実を図る。
- 家庭・地域への情報発信や啓発活動を促進する。

2 研究協議

グループ協議後の全体交流(8グループ)

- A 教師の考え方の温度差を解決するためにしっかりとした計画を立てる必要がある。栄養教諭は栄養士としての業務が多く栄養教諭としての業務ができないので、栄養教諭を増員する必要がある。
- B 全体計画や実践はあるが、系統性や関連性は不十分。組織としての機動性を高めることと、一つ一つの実践を大切にしたい。栄養教諭の絶対数が不足している。食育を学校評価に位置付けて保護者・児童アンケートを実施し改善を図るべき。
- C 自らの健康を改善できる力を付ける。そのために、校長として全体計画を教職員にどうやって実践させるかが課題。そのために健康に関わる児童の具体的なデータを把握し、改善すべき内容をはっきりと共通理解する。保護者に対してわかりやすい情報発信をする。
- D 食の安全に関わる危機管理が大切(食中毒、食物アレルギー)。地域性に応じた工夫が必要(生産者が見える体制作り、都会では食品会社の活用等)。
- E フッ化物洗口、歩数調査、休み時間の縄跳び、体力テストの結果から改善策を構築するなど様々な取組がある。学校完結ではなく地域との連携が大切。
- F 縦割りによる交流給食、地域の特性を生かした取組。栄養教諭の配置校の不足。
- G 健康教育の経営方針への位置付けが大切。徳育としての健康教育(心の健康)、技に走らず基礎体力の育成を目指す、体力テストの変化の分析、横断的・総合的な学習など、市町村毎の様々な取組がある。実態把握→意識の啓発→明確なビジョン→指導性の発揮。
- H 既存の教育活動を健康教育の視点で見直す。教職員の意識向上、教育委員会との連携強化、家庭への啓発・連携が課題となっている。

Ⅲ ま と め

\*研究の視点1に関わって

子ども自身が積極的に自分の心と体の健康を保ち、成長させることの大切さを自覚させる。そういった健康教育推進の方向性を教職員全体に浸透させ、実践化させていくことが基本である。そのための、学校経営の重点・基本方針への位置付けと健康教育につながる諸計画の改善・充実が欠かせず、具体化のため、教職員や保護者に

対して、明確な健康教育のビジョンを示し、意欲化につながる具体的な事例やアイデアの紹介が大切である。これらを通して、大人の側が課題と方向性を共有し、連携した組織的な取組が実現できる。

組織として方針の実現に向うため、職員それぞれの役割と関連が認識されていなければならない。進行管理および評価の規準を明確にするため、研修と校長の指導が鍵となる。

また、子どもたちが自主的に自由に健康づくりに取り組むことができる学校全体の環境整備も押さえないポイントである。

健康管理能力の育成を図る教育活動の推進については、教育課程の中で、健康教育がどのように実践され成果を上げているかをとらえたい。子どもたち自らの健康管理能力の育成を図るため、子どもたちが自分の取組を記録し、振り返ることのできる具体的な方法を準備し、自分の変化・向上を客観的に評価・判断できる基準を与えることにより、励みとなり、次の目標設定につながる。

家庭・地域・関係機関との連携による健康教育の推進については、健康な生活の基本は家庭生活にあるが、学校から家庭に、「望ましい状況」「問題が与える影響」「実際の事例」「課題になっていること」「目指すべきこと」を共有できる発信が不可欠。

地域の特性や人材を生かす働きかけが必要で、子どもの実状、ニーズ、地域や行政への期待など、具体的に伝えるべきである。

#### \*研究の視点2に関わって

栄養教諭の活用による食育指導の充実と校長の関わりについては、経営計画に「食に関する全体計画」を策定し位置付けること。作成は、栄養教諭の専門性を生かし、多くの職員が組織的に手がけ、教職員の食育に関する意識向上を図る。食育の全体計画は作成されているが、各学年ごとの指導計画が整備されておらず、実践と結びついていないとか、教師の意識にバラツキがあるという例もある。校長が教育課程編成の基本方針を示し、様々な活動の特性に応じて適切に食育教育が実施されることが大切である。

多くの職員が食の教育を実践できる環境づくりのため、指導の場面とねらいの明確化、栄養教諭と他の職員の意思疎通と活発な実践交流が求められる。また、栄養教諭の増員も呼びかけていきたい。

家庭との連携による望ましい食習慣の確立については、食と健康に関する課題が山積する中、家庭の理解を得る取組は一層重要で、子どもの体質や対処の仕方の情報交換も必要に応じて不可欠である。家庭に対して行われている食に関しての重要性や課題の提言や呼びかけを絶やすこと無く活用していきたい。

地域に根ざした食育指導(教育活動)の充実については、給食の献立では、地域の特性を生かした献立メニューが作成され、地域の生産活動と連携させた実践例もある。

「食育とは、食が生き物の命で成り立ち、地域の特性や歴史と深くつながり、代々、人の暮らしを支えてきた

ことを知り、深い感謝の念と、食べることを大切にすることを育成するための教育計画である。」ことを校長として、広く保護者・地域に発信していくことが大切である。

#### 視点1に関わる課題

- ① 各領域及び総合的な学習の時間、学校行事など、健康教育の全体計画における関連を明確化、校務分掌への位置付け、校内委員会の設置など、指導体制の整備・充実
- ② 研修の充実、心と体の両面について教師の実践的指導力の向上
- ③ 学校評価などを活用し、生活習慣の把握に努め、保護者の意識啓発や学習機会提供のための積極的な情報提供
- ④ 意欲的に実践できる体力・運動能力向上の取組の工夫と継続

#### 視点2に関わる課題

- ① 全体計画に基づき、発達段階に応じた具体的実践例の工夫と積み上げ
- ② 担任教師の他、栄養教諭や養護教諭の役割と関わり方の明確化と連携した指導の計画と実践
- ③ 家庭での食習慣の把握と意識啓発
- ④ 栽培体験や地域人材の協力、食に関する授業の充実と保護者への公開、給食の試食会など、家庭・地域との連携

### 「第10分科会に参加して」

深川市立北新小学校 高田 宏 昭

「子どもの心身の健やかな成長を促す健康教育の推進と校長の役割」と題し、空知校長会・石丸校長が提言された。3年間の研究の中で、北空知小中学校における実態把握と課題の明確化、経営方針の位置付け、各校での課題改善策と実践を発表できたことは、これまで研修に関わった校長先生を含め、深川市校長会の一人として大きな財産である。

グループ討議では、地域性や規模が違う様々な学校での取組や課題を交流。健康教育や食育を推進するための校長としてのリーダーシップはどうあるべきかを中心に、積極的な話し合いが進められた。

健康教育にとどまらず、教職員の意識改革の先頭に立つ立場として、「改善するための根拠」を具体的に発する材料(データ化)や発信の仕方の工夫、組織作り等の重要性を再認識した。それぞれの学校の実状に合わせ、担当教諭(養護教諭等)を中心とした組織的機能が有機的に働いた実践や保護者との連携を通じた取組…など、自校を振り返る機会と課題解決の糸口や経営への「気迫」をいただけた有意義な大会。

関係者の皆様に対し心より感謝いたします。ありがとうございました。